

撚糸、織り、染色の職人技

機能、エコロジーで日本発見

日本には撚糸や織り、染色の達人がいる。天然素材を、さらにエコロジカルな視点を加えてパーシヨンアップする。かつての暮らしのアイテムに、デザインを加えて現代に再浮上させる。常に機能、技術に磨きをかけてきた職人技が健在だ。タオルを中心に、そんなメード・イン・ジャパンを紹介したい。

浅野撚糸（岐阜県安八郡）は「パーマネントツイスト」と呼ぶ特殊な撚糸技術により、07年に超軽量タオル「エアークル」を商品化。ファイバー一本一本に空気を入れ込むことで毛羽落ちが少なく、ボリュームと軽量感を実現した。軽さは従来のタオル比約2分の1、吸水性は60%増とい

う。この2月、デザイナーのジェーン・マコ・阿部氏がプロデュースした新「A・K」シリーズ(1)を発表した。タオル類とハーフケットとマットは大判サイズ、パープルと茶、コハク色の3色で高級感を演出している。海外展開を視野にする。阿部氏は中国生まれアメリカ育ちの日本人。「すべ

て日本製、技術とチームワークで製作している」と、グローバルな感性が

泉州こだわりのタオルから、金野タオル(大阪府)が吸水速乾素材クールマックを使用し、夏にぴったりの「クールマフラー」(2)を発売。糸の一本一本がガーゼの空間で構成されており、さらさら

感が持続する。逆に、冬だけの工場ではオーガニック以外の糸が残存しているため、インド、ペルーの専門工場で紡績する。染色後の廃棄も他社と共同で水処理プラントを完備している。「風で織る」のは年間25万キロ、使用電力の100%を風力発電で賄っているという

こと。バスタオル1枚あたり370gのCO₂削減になる。

備後撚糸(広島県福山市)が80年の撚糸技術で開発した「和紙糸」和紙布。軽く通気性がよく、耐久性と保温性に優れている。麻の繊維を溶かしてパル

プ化し機械で漉(す)き、特許の水撚り製法後、織りあげる。100%天然素材だから使用後は3、4年で土中で分解する。08年のG8議長サミットで各国への贈呈品に生地が採用された。染織作家の塩谷栄一氏とコラボレーションし、ストールや

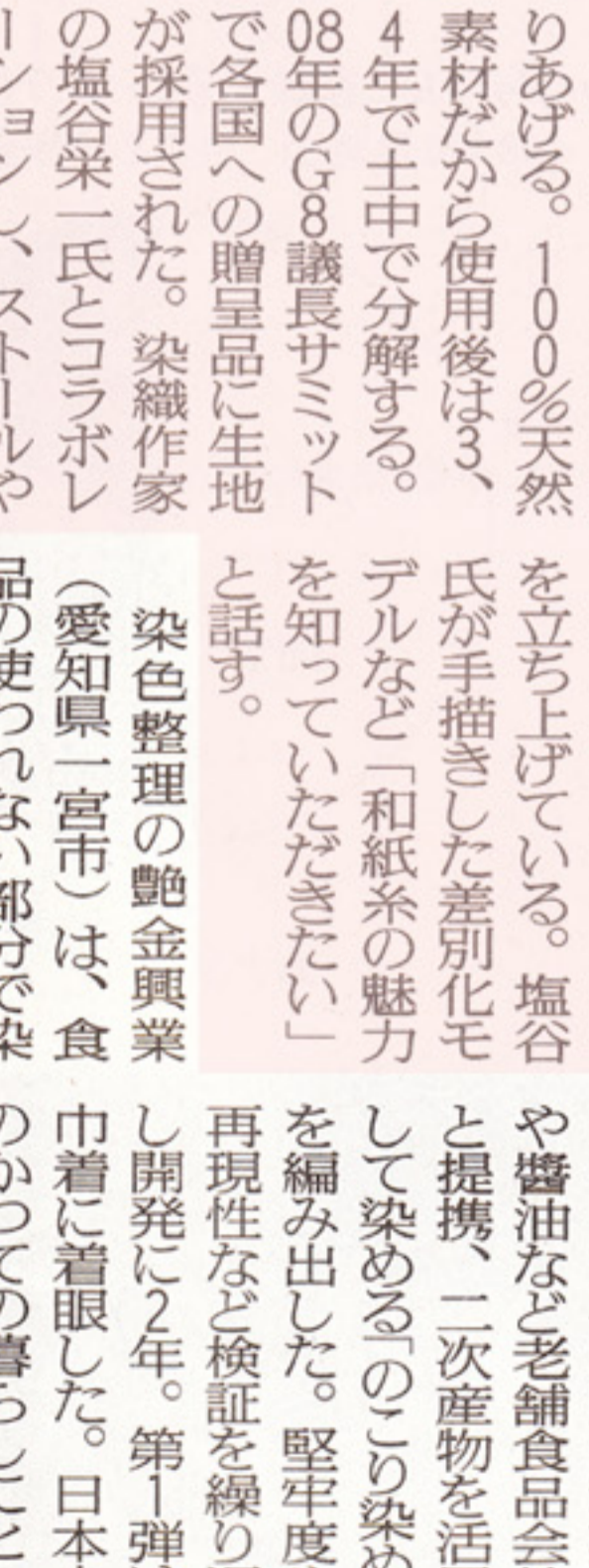
おしゃれなオリジナルバッグ「ブーンライト」(5)を立ち上げている。塩谷氏が手描きした差別化モデルなど「和紙糸の魅力を知っていただきたい」と話す。

色する新事業がスタートした。東海3県の和菓子や醤油など老舗食品会社と提携、二次産物を活用して染める「のこり染め」を編み出した。堅牢度や再現性など検証を繰り返して2年。第一弾は巾着に着眼した。日本人の優

5 おしゃれなオリジナルバッグ「ブーンライト」



6 色する新事業がスタートした。東海3県の和菓子や醤油など老舗食品会社と提携、二次産物を活用して染める「のこり染め」を編み出した。



トを得て、現代的な収納シリーズ「クラキン」(6)にデザインした。パセリ、あずき、栗、梅、柿、コーヒー、ピーナツ、ワイン、ウーロン茶、大豆の10種の残り染めから奥行きのある色合いが実現した。四角や長方形、円形の優しい巾着だ。